

授業概要

近年、幼稚園・保育所で、障害児の受け入れが進んできており、幼稚園教諭や保育士が障害について理解していることが不可欠となっている。また、幼小保連携の観点から、小学校教諭にとっても、障害についての理解は重要といえる。障害児保育Ⅰでは、知的障害、発達障害といった各種の障害について演習や視聴覚教材を通して指導する。また、各種障害に関する事例について、ディスカッションを行い、具体的な支援方法を指導する。

授業計画

第1回	障害児保育の概要、障害とは何か
第2回	知的障害①：知的障害の概要と種類
第3回	知的障害②：知的障害児の発達と予後
第4回	知的障害③：知的障害児や保護者に関する事例検討
第5回	発達障害①：LD、ADHD
第6回	発達障害②：自閉症スペクトラム症
第7回	発達障害③：発達障害児の発達と予後
第8回	発達障害④：発達障害児や保護者に関する事例検討
第9回	身体障害①：話し言葉の障害、肢体不自由
第10回	身体障害②：視覚障害、聴覚障害
第11回	身体障害③：身体障害児の発達と予後
第12回	身体障害④：身体障害児や保護者に関する事例検討
第13回	障害児保育の考え方①：理念、歴史、障害児保育の場など
第14回	障害児保育の考え方②：ICF、ユニバーサルデザイン、生活の質など
第15回	まとめ
第16回	定期試験

到達目標

障害児保育がどのような場で行われるのかを把握するとともに、知的障害、発達障害といった各種の障害の特徴と教育・保育における発達の援助について理解を深める。また、障害児に対する支援の方法を理解する。

履修上の注意

授業には主体的に参加することが重要です。その一方で、主体的に参加しようとする気持ちがありながらも、授業の進め方やディスカッションへの苦手さのために、上手く取り組めない場合は、対応を検討しますので、教員に相談してください。やむを得ず授業を欠席する場合、授業資料は出席する受講者にとっておいてもらうようにしてください。遅刻・欠席をした場合、出席した受講者から授業内容を確認しておいてください。

予習・復習

ディスカッションなどを行うにあたり、障害児保育に関する基本的な知識についての予習・復習を授業外で行う必要があります。そのための課題については授業内で案内します。

評価方法

課題などを含めた授業への主体的な参加 40%、定期試験 60%によって評価する。

テキスト

増南太志・山本智子ほか「よくわかる障害児保育」大学図書出版